

## NPO と人材の問題～「後継者不足」の実態とは～

NPO 法人の制度ができて 20 年。全国の NPO 法人の数は 5 万を超え、和歌山県内でも経済規模は年々拡大しており、一定の存在感を示すようになってきました。しかし、そんな NPO 法人の間で人材不足を訴える声が多くなっているようです。その実態とは・・・？

### 「後継者不足」の声

県 NPO サポートセンターでは、毎年 2、3 月に、県内の NPO 法人・ボランティア団体を対象にアンケート調査を実施しています。団体の悩みを複数回答で挙げてもらうと、半数以上の団体が「資金の調達に苦労している」「後継者がいない」と回答しており、この傾向はここ数年変わっていません。

NPO の運営資源はよく「ヒトモノカネ・情報」といわれます。これらをどう集めるかは団体、もしくは役員の腕の見せどころとなります。しかし、人材や資金は簡単に集まるものではありません。

### 全国調査より

内閣府が 3 年前に実施した NPO 法人の実態調査では、NPO 法人の運営上課題として一番多かったのは「人材の確保や教育」で回答の 66.9% を占めました。そして「収入源の多様化」の 54.2% の「後継者の不足」の 38.8% と続いています。やはり人材や資金面で課題を感じているという法人が多いことがうかがえます。

この調査では、回答のあった法人の約 8 割が「代表者を交代することを想定している(交代する可能性がある)」と回答しており、多くの代表者は後継者のことを考えていることがわかりました。なお交代の時期については 3 年以内が約 36%、5 年以内まで広げると 6 割弱と、比較的近いうちの交代を考えていることがうかがえます。

### 代表の高齢化が交代のきっかけ?

代表者が交代を意識したきっかけ(複数回答)は約 75% が「年齢」と特に多く、2 位の「自身の健康状態」(約 26%) を大きく引き離しています。この調査では回答者の年齢層を 5 歳刻みで聞いており、最多は 65～69 歳で 20.3%、次いで 70～74 歳で 19.6% と、70 歳前後が約 4 割を占めています。さらに別の設問から、設立以来代表を努めている 65 歳以上の代表者が全体の 32.4% いて、そのうち約 2 割が 10 年以上努めていると回答していることから、創業以来 10 年以上代表を努めているシニア世代の方が少なくないようです。

### 後継者が抱くハードル

調査では、NPO 法人の代表を引き継ぐ際には、代表者の役割(責任・業務)のほか、団体の理念や活動方針、団体が有する外部とのつながりをどうやって継承するかがポイントになると示唆されています。しかし、10 年以上にわたって団体を率いてきた代表者の後継となる人が、役割を一度に後継者に受け継ぐことに対するハードルの高さも考えられます。段階的に役割を移譲したり、役割を他の役員と適切に分担したり、いい距離感で後継者を支援したりといった工夫も必要になるケースがあるとも指摘しています。場合によっては代表者の役割を抜本的に見直すことも必要かもしれません。

### NPO 法人の「人材不足感」は高い...

- 「人材の確保が課題」と答えた NPO 法人 66.9%
- (5 年以内に) 後継者に代表を譲りたい代表者 約 8 割  
→ うち 6 割が後継の準備は進んでいない  
→ そのうち半数が「適切な候補者がみつからない」
- 後継者に代表を譲る意向がない代表者 約 2 割  
→ うち約半数が「適当な候補者がいない」

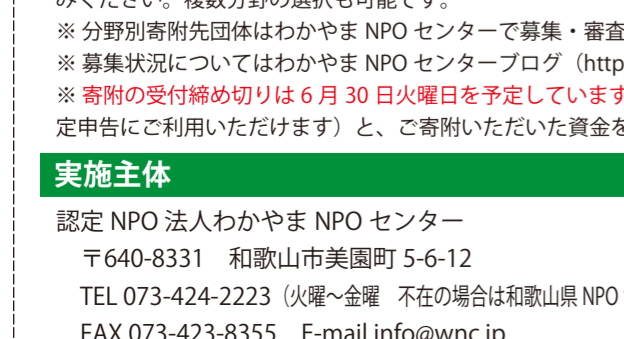
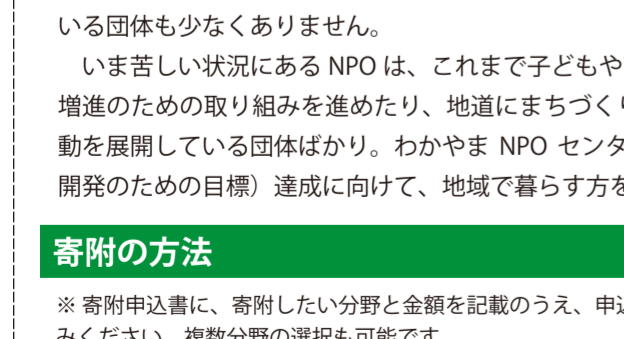
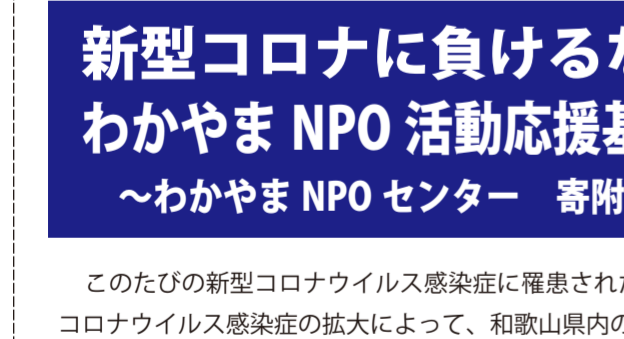
### 高齢化が進む現場

- 「年齢」が交代を意識するきっかけになった代表者 約 75%
- 代表者の 4 割が 70 歳前後
- 創設以来 10 年以上代表を努めている人も多数

### 後継者がみづかりづらい NPO 特有の要因

- 企業のような報酬が得られるわけではない
- 現代代表者のように動けないというプレッシャー
- 社会構造的に現役世代が少ない  
→ 自治会・町内会・PTA なども同様の課題に?

一般的に企業のような報酬を受け取れる事業 (志場久起)



【参考】内閣府「特定非営利活動法人における世代交代とサービスの継続性への影響に関する調査」報告書  
https://www.npo-homepage.go.jp/uploads/2019research-impact-on-generational-change-report-1.pdf

わかつく 238 号は 6 月 5 日付の予定です

## 新型コロナに負けるな！ 緊急寄附募集！

### わかやま NPO 活動応援基金

～わかやま NPO センター 寄附文化を育てよう！キャンペーン～

このたびの新型コロナウイルス感染症に罹患されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。今回の新型コロナウイルス感染症の拡大によって、和歌山県内の NPO のなかには活動停止や大幅な縮小に追い込まれている団体も少なくありません。

いま苦しい状況にある NPO は、これまで子どもや高齢者、障がいのある方の生活を支えたり、市民の健康増進のための取り組みを進めたり、地道にまちづくりに取り組んだり・・・様々な形でまちに欠かせない活動を展開している団体ばかり。わかやま NPO センターは「誰ひとり取り残さない」国連 SDGs (持続可能な開発のための目標) 達成に向けて、地域で暮らす方を支える NPO 活動を応援する基金を立ち上げます。

### 寄附の方法

- ※ 寄附申込書に、寄附したい分野と金額を記載のうえ、申込書に記載している、わかやま NPO センターの口座にお振込みください。複数分野の選択も可能です。
- ※ 分野別寄附先団体はわかやま NPO センターで募集・審査のうえ、対象となった団体に均等にお振込みいたします。
- ※ 募集状況についてはわかやま NPO センターブログ (http://blog.canpan.info/wnc/) で随時お知らせします。
- ※ 寄附の受付締め切りは 6 月 30 日火曜日を予定しています。8 月に助成後、2021 年 1 月を目処に寄附金受領証明書(確定申告にご利用いただけます)と、ご寄附いただいた資金をもとにおこなった事業報告をお届けする予定です。

### 実施主体

認定 NPO 法人わかやま NPO センター  
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12  
TEL 073-424-2223 (火曜～金曜 不在の場合は和歌山県 NPO サポートセンターに転送されます)  
FAX 073-423-8355 E-mail info@wnc.jp

寄附申込書はこちらからダウンロードできます



## 1 寄附先を分野から選択したい場合【分野別寄附】

### 寄附金税制の対象となります

次の A から H の 8 つの分野でご寄附を募っております。複数の分野にまたがっても OK。金額は問いません。

### A 子ども支援

子ども食堂、子どもの虐待防止、民間学童保育など子どもの豊かな育ちを応援する事業

### B 障害者支援

公的な障害福祉サービスの枠組みから外れる障害者支援を応援する事業

### C 高齢者支援

公的な介護サービス等の枠組みから外れる高齢者支援を応援する事業

### D 健康増進

住民の健康増進につながる地域のスポーツや介護予防等を応援する事業

### E まちづくり

新型コロナが落ち着いたあとのまちづくり活動全般を応援する事業

### F 文化の振興

この間活動がストップしている様々な文化振興を応援する事業

### G 弱者支援

難病や病気の患者会や家族会などをはじめ、様々なハンディを負っている方を応援する事業

### H わかやま NPO センター

新型コロナウイルス感染症で影響を受けた団体支援と、情報収集・発信をおこなっています

## 2 寄附先がすでに明確な場合【指定団体寄附】

### 寄附金税制の対象となりません

寄附したい団体が明らかな場合は、わかやま NPO センターを経由して、団体に寄附します。

- ※ 振込手数料は差し引かせていただきますのでご了承ください。
- ※ このコースで寄附される場合、寄附金税制の対象にはなりません
- ※ 先方が寄附の受入をおこなっていない場合、公序良俗に反する行為をおこなっていると認められる場合、団体名誤りなど振込先口座が見つからない場合などの理由で寄附ができないことがあります。この場合は、寄附額を「1. 分野別寄附」に掲げられている類似分野への寄附金に振替させていただきます。